

通信系ディーラーの新商材登場

ビジネスホンをSaaSで提供

ASP/SaaS形態で提供される法人向けIP電話サービスが増えてきた。通信系ディーラーにとっては「競合」となるが、一方で今までリーチできなかった顧客層を取り込む有力商材となり得る可能性も秘めている。 文 坪田弘樹(本誌)

ASPあるいはSaaSと呼ばれるサービス提供形態が注目を集めているが、通信業界でも大きな波を引き起こすかもしれない。

現在、中小企業をターゲットにインターネット経由でビジネスホン/PBX機能そのもの、あるいは通話録音などの付加機能をASPサービスとして提供するビジネスが育ち始めている。IPセントレックスのいわば“中小企業版”とも表現できるサービスだが、インターネットを用いるベストエフォート型のサービスで、非常に安価な料金で利用できる。通信系ディーラーにとっては、まさに「競合商品」となるものだ。

こうしたASPサービスに、通信機

器販売の今後を占う上で見逃せない動きが出てきている。これを商材として積極的に担ぐ通信系ディーラーが出始めているのだ。さらにASPサービスは新商材だけでなく、通信系ディーラーに月額利用料という新たな経営基盤をももたらす可能性を秘めている。

以下、通信系チャネルへの展開を模索するASP事業者の現状をレポートする。

ASPで新たな選択肢を提供

ホスティング事業を展開するリンクは、主力事業「AT-LINK専用サーバ・サービス(at+link)」で現在約2500社のユーザーを抱え、8000台超



リンク
取締役 営業部長
眞神克二氏

のサーバーを稼働している。

同社はまた、レンタルサーバーのユーザーに対してアプリケーションサービスも提供している。その1つが、06年6月から提供を開始したIPビジネスホンサービス「BIZTEL(ビズテル)」だ。専用サーバーにSIPサーバーをインストールし、ユーザーはインターネット経由でその機能を利用でき、自社内に高価な主装置を設置する必要がない。また、同社のサーバーユーザー以外も共用サーバー型でビズテルを利用できる「BIZTEL Lite」プランも用意されている。

ビズテルは、一般的に必要とされる法人向け電話機能が一通り備えられている(図表1)。また、特定のISPに依存せず、インターネット接続環境があればどこからでも利用できるため、拠点間の内線化のみならず、外出先や自宅でも内外線通話・転送が可能だ。内線番号の設定・変更など、各種設定はWebブラウザから行い、外線番号、同時通話数も追加できる。

法人向けの電話サービスとして十分な機能を備えるビズテルだが、当然ベストエフォート型のサービスとな

図表1 「BIZTEL」のサービス内容と利用料

プラン	ライト	スタンダード	備考
最大同時通話数	3	10	
最大利用ユーザ数(内線番号数)	40	3,000	左記はシステム限界値。サーバスペックにより異なる
基本ビジネスフォン機能	●	●	ダイヤルイン番号も設定可能
音声ナビゲーション	●	●	番号選択により着信端末を振り分ける
不在応答・定時応答	●	●	ボイスメール送信、転送が可能
拠点間内線	●	●	
共有電話帳・個人電話帳	●	●	管理者画面での一元管理が可能
課金明細・通話履歴	●	●	
電話会議	×	●	自宅PCや携帯電話等からも参加可能
サーバー形態	共用	専用	
番号ポータビリティ	○	○	既存の電話番号をBIZTELに移行
BIZTEL CTI	○	○	「Salesforce」と連携
ウェブ電話(クリックトゥコール)	別契約で利用可能	○	
FAX	○	○	08年4月開始予定
コールセンター	×	○	08年4月開始予定
初期費用	5万2500円	3万1500円	「スタンダード」は、別途専用サーバーサービス「AT-LINK」の契約が必要
月額利用料	2万2050円	1万5750円	

●:標準機能 ○:オプションで利用可 ×:利用不可